

## 第一章 全国戦災都市連盟結成の経緯

昭和十六年十二月八日、日本海軍の真珠湾奇襲攻撃に端を発した第二次世界大戦太平洋戦争は、三年九ヶ月ののち即ち昭和二十年八月十五日、ポツダム宣言を受け入れて無条件降伏したわが国の惨澹たる敗北裡に終戦を迎えた。

連合軍によって無血占領されたわが国土は交戦中アメリカ空軍の徹底的な無差別爆撃により、東京都をはじめ全国百十余の主要都市の殆どが灰燼に帰しており、罹災者、復員、引揚者は着のみ着のままで住と食を求めて全国津々浦々の巷に彷徨していたが、交通機関は麻痺状態におかれ、罹災都市の行政機関もまた機能極度に低下してなす術もなく、わが国有史以来未曾有の民族的悲劇に遭遇して日本全土は名状すべからざる困乱状態に突入していたのである。

マッカーサー元帥を最高司令官とする進駐軍の方針にもとづいて、敗戦国日本は完全に武装解除されて軍国主義は一掃され、また戦争放棄を国是とした新憲法が公布された。こうして日本は民主主義国家として生れかわったが、無謀な戦争がもたらした災禍はわが国の政治、経済、産業、文化とあらゆる面にわたり、現実の世相は行方もさだかならざる混乱状態にあった。全国戦災都市においてはそれは一層深刻なものがあつたと言わなければならない。

終戦後初代姫路市長に就任した本連盟会長石見元秀氏は、戦災都市の財政の行き詰まりを早くより洞察し、尋常一様の方法を以ってしてはこの難局を切り抜けることが不可能であることを悟り、戦災復興の財源獲得の手段として、当時の社会通念としては思い切った市営企業論を提唱したのである。まず姫路市議会を説得して協力を得、中央政府に対し、市営富くじ・競馬・輸送事業等の実施に関する援助の嘆願書を提出して、これが実現を図ったが、一市の力のみではこの信念をつら抜いて目的を達成することがいかに困難であるかを悟り、全国の戦災都市が一致団結して当れば政府を動かすことが出来る見透しをもって、昭和二十一年十月、文書を以って当時判明していた全国九十余の戦災都市に呼びかけたのである。

同じ悩みを持つ全国戦災都市の反響は著しく、その趣旨に賛成し行動を共にしようという声は続々と寄せられ、呼びかけた九十余の戦災都市が全部呼応することとなったので、機生に熟した翌二十二年一月十八日、提唱市である姫路市の市立琴丘高等学校に於て、極度に交通事情の悪いなかをおして集った大多数の市長列席のもとに、「全国都災都市連盟」の結成大会、ひきつづき第一回総会が開かれ、ここに本連盟は呱呱の声を挙げたのである。

### 1 結成の趣旨—結成大会

本連盟結成大会に於て、提唱都市の姫路市長石見元秀氏は戦災都市の直面する幾多の難課題打策について、烈々たる信念を吐露して独自の市営企業論の構想を披瀝し、戦災復興の隘路となっている官僚独善を打破し、閻浮修羅の廢墟に立つ戦災都市を自治体自身の権限と施策によって立派に復興させるために、全国戦災都市が打って一丸となり小異をすてて、大同に進むための強力な全国的運動を展開する決意をあきらかにした。

つづいて規約審議に入り本連盟の趣旨、目的を明らかにした。即ち「其の団結の力であらゆる拘束を打破し、隘路を切り開き相互援助の下戦災都市の急速な復興完遂、戦災

都市の援護及び市民生活の安定向上を図ることを目的とし」(第三条)その目的を達成するために

- 一、戦災復興に関する施策の調査及び研究
- 二、市営企業の優先免許の獲得
- 三、戦災復興費に対する国庫補助の増額及び起債許可範囲の拡大
- 四、加盟市相互間の緊密な連絡及び情報の交換

等明確に本連盟の性格と事業の範囲をかかげた。(同第四条)この規約はその時局の推移にともない多少の変更を見たが、本連盟のこうした理念と原則は最後まで貫かれている。

## 2 第一回総会

結成大会終了後、引続き第一回総会に入り満場一致で本連盟提唱者である石見姫路市長が会長に選ばれ議長席に着席し挨拶ののち議事に入り、マッカーサー最高司令官への感謝決議を行い、加盟各都市提出のいずれも戦災都市の直面する重要議題を項目別に逐条審議し、それぞれ決定(記録第一回総会議案参照)次期総会開催地を小田原市に決定した。

第一回総会はこうして盛大感激裡に有意義な幕を閉じたが、この総会によりこれまでバラバラであった各戦災都市長の意志が疎通すると共に戦災都市の歩むべき大道が明確に認識され、本連盟の高くかかげた旗印のもとに力強く団結し戦後の日本にとって、最大の難事業である全国戦災都市復興完遂をめざして巨歩を一步進めたのである。